

平成21年5月11日

公立大学法人横浜市立大学
理事長 本多 常高 様

杉山 貢

謝罪文

この度は、私自身の行為をめぐり、理事長をはじめとしました横浜市立大学の関係の方々ならびに附属市民総合医療センターの全職員に大変なご迷惑をおかけするとともに、また、大学及び病院の社会的名誉と信頼を失わせてしまい、誠に申し訳ございません。心からお詫び申し上げます。

私は、この数ヶ月の間、我が身の不甲斐なさと、当時置かれた立場に関する自覚のなさを深く反省し、すべての公的な職を辞し、一切の活動を自粛しております。病院長として、附属市民総合医療センターの病院経営の改善・改革と救急医療の向上に心血を注いでまいりましたが、そのことをも無に帰すようなこのような事態を招いてしまい、慚愧に堪えません。なお、昨年暮れから健康を害し、今年に入ってから入院の上、点滴などの治療を受けている状況にあったため、謝罪が本日になってしまったことについて、ご理解をお願いいたします。

平成17年4月の法人化を控え、法人化後も救命救急センターや病院のために奨学寄附金を使いたいという思いから、架空請求という不正な経理処理により、業者に資金をプールしてしまうとともに、そのプール金から物品等の購入を行ったことは、他の職員の範となるべき病院長としてあるまじき行為であったと深く反省するとともに、退職後もプール金から物品等の購入を続けてしまったことにつきましても、自身のおかれた立場に関する自覚が欠如していたと思っております。大変、申し訳ございません。

また、後進の相談に乗るためとはいえ、退職後も部長室を引き続き使用してしまった件につきましても、どのようにお詫び申し上げて良いか、言葉がございませんが、本当に深く反省しております。

なお、私はその責任の重大さを痛感し、謝罪の意を込めて、業者にプールした資金から費消した全額については、平成21年5月18日までに返還させていただきたいと存じます。

これら一連の行為に関しまして、大学や病院の皆様にご迷惑をおかけしましたことをここに重ねて謝罪致します。申し訳ございません。